

JACET Kansai Newsletter

No. 77 May 20, 2017

一般社団法人大学英語教育学会関西支部 (JACET Kansai Chapter)

支部長: 小栗 裕子 (滋賀県立大学) (Chapter President: Yuko Oguri, University of Shiga Prefecture)

事務局: 〒606-8501 京都府京都市左京区吉田二本松町 京都大学国際高等教育院 高橋 幸 研究室内

(Chapter Office: c/o Sachi Takahashi, Institute for Liberal Arts and Sciences, Kyoto University)

URL: <http://www.jacet-kansai.org/> (関西支部へは左の URL からご連絡ください)

改訂版中学校教科書に思うこと

小栗 裕子 (支部長)

新緑の美しい季節となりました。支部長の小栗です。今年度もどうぞよろしくお願い申し上げます。

さて3月19日開催の理事会で各支部の活動報告がありました。それぞれ特色があり、興味深く思いました。関西支部は春季・秋季大会、3回の講演会、3回の Newsletter 発行、そして年度末の紀要刊行が主な活動内容です。昨年度もこれらが滞りなく行われました。詳細は HP をご覧ください。全力で支えてくださった幹事の先生方には、心よりお礼申し上げます。いつも問題があれば(実はこれが時々あるのです)即座に対応して下さった東郷多津先生と藤澤良行先生、懇親会を楽しみながら、赤字が出はしないかと絶えず気配りをして下さった村上裕美先生と増田将伸先生、Newsletter 発行と HP 更新に細心の注意を払い管理して下さった表谷純子先生、そして、投稿者、査読者と編集委員の間を迅速に仲介して下さった吉村征洋先生。また編集委員として2期務めて下さった佐藤恭子先生と大会運営にご尽力下さった研究企画委員の先生方にも深く感謝申し上げます。

今年度より副支部長2名で運営に臨みます。紀要担当の新田香織先生と支部・国際大会担当の藤澤良行先生です。支部紀要は今年度第20号を迎えますので、特集を企画しています。そして、2020年に第59回国際大会が関西で開催されますが、この大会を視野に入れての2名体制です。またみなさまのご協力が必要になります。その時はよろしくお願いいたします。

ところで昨年度より中学校の検定教科書が改訂になりました。6種類の教科書は3種類がB5版からAB版になり(4年前には1種類のみ)、語彙数も大幅に増えています。投野(2016)は、これらの検定教科書3学年分を集計し分析をした結果、「異なり語数」では伸び率が平均162%に、「総語数」でも232%に増加していると指摘しています。前者をもう少し具体的に言うと、4年前には3年間で平均1,292語だった語彙数が今回は2,000語程度に増えたということです。後者について投野(2016)は、小学校での英語活動を前提に「次の指導要領も射程にいれたような思い切った

テキスト増量が今回の特徴である」と述べていますが、今年の『英語教育』(大修館書店)2月号では「大幅増に向けて語彙指導をアップデートする」が特集として組まれています。

昨年度後期の教科教育法IIの「教科書と教材研究」の時間に2、3回生の受講生に採択率の多い改訂版教科書を3種類見せながら、自分達の時と比較してどのような点が変わったのかを聞いてみました。すると全員が語彙と量の多さをあげていました。また主な登場人物の国籍についてもインド人はいなかったというコメントがありました。その時、カリフォルニアに10ヶ月交換留学をした直後にこのクラスを受講した学生が「先生、この人達はインド英語を話すのですか」という質問をしてきました。これは良い質問だと思いつつながら、音声については全く考えたことがなかったので、たぶんアメリカ英語でしょうねと答えながら学生用に購入してあったCDを聞いてみました。当然アメリカ英語が流れてきたので、その質問をした学生がさらにこんなことを言いました。「先生、私達が留学したCAには移民や留学生がたくさんいて、英語の聞き取りで本当に苦労しました。早くからいろいろな英語に接していればと思ったのですが。」

仕事柄中学校の教科書には目を通していたのですが、音声にまで意識が及びませんでした。そこで、上述3種類の教科書3学年分を春休みに聞いてみました。もちろん、みなさんが予想されたように米国人の録音によるものですが、発見もいくつかありました(今回初めて3学年を通して聞いたので、以前からこのような工夫があったのかもしれません)。それは1年生の時点からかなり自然な速度であること、聞き取り練習ではそれなりに背景がわかるような騒音が入っていること、そして1年生にチャンツを取り入れて親しみやすくしているCD教材が1種類あることです。学生の質問にはとさせられて音声にも注目をし始めましたが、「多様性に富んだ」英語は登場人物のみでなくどの段階で導入すればいいのかについて考えさせられました。

それでは、みなさまには6月17日（土）に甲南大学岡本キャンパスで開催の春季大会でお会いできますことを楽しみにしております。

参考文献

投野由紀夫. (2016). 「教科書語彙の『調理法』と『品質管理』」 『英語教育』 64 (12), 17-19. 大修館書店.

なお、上記イベントは、諸事情により、断りなく日程・場所・内容等に変更が生じる場合がございます。最新情報は支部ホームページ (<http://www.jacet-kansai.org/>) にて随時更新しておりますので、ご確認ください。

Please check the Kansai Chapter website for specific details: <http://www.jacet-kansai.org/>.

■ 今年度のイベント・カレンダー ■

今年度に予定されている JACET 関西支部の活動です。是非ご予約ください。

日時 (Date)	行事・概要 (Event)
2017/6/17	支部春季大会@甲南大学 岡本キャンパス Kansai Chapter Spring Conference, Konan University, Okamoto Campus
2017/7/8	第1回支部講演会・支部役員会@関西学院大学 梅田キャンパス Kansai Chapter 1st Lecture Meeting / Chapter Board Meeting, Kwansai Gakuin University, Umeda Campus
2017/9/30	『JACET Kansai Journal (JACET 関西支部紀要)』20号投稿原稿締切 The deadline to submit a paper for JACET Kansai Journal No. 20
2017/10/14	第2回支部講演会・支部役員会@同志社大学 今出川キャンパス Kansai Chapter 2nd Lecture Meeting / Chapter Board Meeting, Doshisha University, Imadegawa Campus
2017/11/25	支部秋季大会・支部総会@大阪樟蔭女子大学 Kansai Chapter Fall Conference / Chapter Annual Meeting, Osaka Shoin Women's University
2018/3/10	第3回支部講演会・支部役員会@大阪電気通信大学 駅前キャンパス Kansai Chapter 3rd Lecture Meeting / Chapter Board Meeting, Osaka Electro-Communication University, Campus in front of the station
2018/3/31	『JACET Kansai Journal (JACET 関西支部紀要)』20号刊行 Publication of JACET Kansai Journal No. 20

■ 2017年度 JACET 関西支部春季大会 ■

来る6月17日（土）、2017年度支部春季大会が、甲南大学岡本キャンパスで開催されます。最前線シリーズは昨年秋季大会のスピーキングに引き続き、今回はライティング研究最前線をお送りします。コーパスの教育利用、語彙学習方略がご専門の水本篤先生（関西大学）の企画ワークショップと、第二言語ライティングを研究されている佐々木みゆき先生（名古屋市立大学）の基調講演が予定されています。

その他、多数の研究発表・実践報告、ポスター発表、ワークショップ、コロキウムも行われます。初夏の一日、岡本キャンパスの静かな環境で意義深い交流のひとつを共有できればと考えています。会員のみなさまのご参加を心よりお待ちしております。なお、詳しくは支部ホームページをご参照ください。

日時：2017年6月17日（土）
場所：甲南大学 岡本キャンパス
(<http://www.konan-u.ac.jp>)

企画ワークショップ：「オンライン参照ツールを用いた英語論文の執筆—効果的な利用と指導の可能性—」
水本 篤 先生（関西大学教授）

基調講演：「第二言語ライティング研究最前線：長期的観察に見られるパターンと個人差」
佐々木 みゆき 先生（名古屋市立大学教授）

参加費：JACET 会員は無料、非会員は1000円

懇親会の事前申込について

大会終了後の18:30~20:00に、懇親会が学内の「カフェ・パンセ」で開催されます。会費は、5,000円（事前申込）、6,000円（当日申込）となります。

懇親会の事前申込を御希望の方は、氏名と所属を明記の上、件名を「JACET 関西支部懇親会事前申込」とし、6月6日（火）までに宇佐美 (akiusami@mukogawa-u.ac.jp) までお申し込みください。なお懇親会費は大会当日、受付にてお支払いください。

Kansai Chapter 2017 Spring Conference

We are very happy to announce that the JACET Kansai Chapter 2017 Spring Conference will be held on Saturday, June 17th at Konan University, Okamoto Campus (<http://www.konan-u.ac.jp>) with the following two invited features:

- **Workshop:** “Writing Research Articles in English with Online Reference Tools: Effective Use and Pedagogical Implications” by Prof. Atsushi Mizumoto (Kansai University); and

- **Keynote Lecture:** “Recent Trends in Second Language Writing Research: Systematicity and Individuality in Two Developmental Studies” by Prof. Miyuki Sasaki (Nagoya City University).

There will also be presentations, a workshop, and a colloquium in various areas of English education. We look forward to meeting you all. Please see details on the Kansai Chapter website (<http://www.jacet-kansai.org>). Come and share your work with the JACET community.

Participation is free for JACET members while ¥1,000 is needed for nonmembers.

Reservation for Conference Party

The conference party will be held at Café Pansee at the conference venue from 18:30–20:00. Make a reservation by sending an email message entitled ‘JACET Kansai Conference Party Reservation’ with your name and affiliation to Mr. Usami (akiusami@mukogawa-u.ac.jp) by Tuesday, June 6th. Pay ¥5,000 on site. Payment at the door without reservation is ¥6,000.

■ 2016 年度第 3 回支部講演会の報告 ■

2016 年度第 3 回支部講演会が、2017 年 3 月 11 日 (土) に大阪電気通信大学駅前キャンパスにて開催されました。講演には 39 名の参加があり、住吉先生より、規範と英語の実態について、多くの実例とともに興味深い研究成果のご発表があり、質疑応答を含めて非常に充実した時間となりました。講演会後の茶話会にも講師の先生方を含めて多くの先生方にご参加いただき、和やかに親交を深めることができました。多くの皆様のご参加、誠にありがとうございました。

日時：2017 年 3 月 11 日 (土) 15:30~17:00

場所：大阪電気通信大学 駅前キャンパス

演題：規範と英語の実態：動詞補部を中心に

講師：住吉 誠 先生 (摂南大学)

The Kansai Chapter Third Lecture Meeting of the 2016 academic year was held on Saturday, March 11th at Osaka Electro-Communication University, Campus in front of the station, with 39 participants. The speakers shared with the audience about his latest research. Twenty two participants continued conversing and exchanging ideas after the lecture.

Date: Saturday, March 11, 2017

Venue: Osaka Electro-Communication University, Campus in front of the station

Title: Prescriptivism and Authentic English in Use: In Cases of Verb Complements

Speaker: Dr. Makoto Sumiyoshi (Setsunan University)

■ 2017 年度第 1 回支部講演会のお知らせ ■

2017 年度第 1 回支部講演会は、下記の通り「文学教育研究会」による講演を予定しています。支部の研究会の活動を知る良い機会です。皆さまのご参加をお待ちしております。詳細は、支部ホームページをご覧ください。

1. 日時：2017 年 7 月 8 日 (土) 15:30~17:00
2. 場所：関西学院大学 梅田キャンパス 1004 号室 (http://www.kwansei.ac.jp/kg_hub/access/)
3. 演題：文学テキストで学ぶ英語とコミュニケーション
4. 講師：寺西 雅之 先生 (兵庫県立大学)
5. 司会・ディスカッサント：齋藤 安以子 先生 (摂南大学)、坂本 輝世 先生 (滋賀県立大学)
6. 概要：日本、英国、オランダ、米国、中国の研究者が執筆者として参加した *Literature and Language Learning in the EFL Classroom* (Masayuki Teranishi, Yoshifumi Saito, & Katie Wales 編著, 2015, Palgrave Macmillan) が出版され 2 年が経過しようとしている。本書は出版後様々なシンポジウムや研究会、そして *CLELE Journal* 等の書評でも取り上げられ、また、関連する研究書 (例: Burke et al. (eds.) (2016) *Scientific Approaches to Literature in Learning Environments*, Saito (2016) *Style and Creativity*, 豊田昌倫他編著 (2017) 『英語のスタイル：教えるための文体論入門』 (*Stylistics for English Learners*)) も相次いで出版され、国内外の当該分野の研究にそれなりの影響を与えているようである。そこで本講演では、文学を通じた英語教育・学習に焦点を当て、まずこの論文集の内容を振り返る。特に、「文学とは何か」、「英語で文学作品に触れる理由」、「文学を活用した教育実

践例」について整理して論じてみたい。さらに、講演後半では、文学教材をこれからの日本の英語およびコミュニケーション教育に活用する方策を提案する。最後に、フロアとの質疑・応答を通じて、今後の英語・コミュニケーション・教養教育の方向性・改善策について考えてみたい。

7. 参加費：JACET 会員は無料、非会員は 500 円。事前申込不要
8. 使用言語：発表は日本語、質疑は日本語・英語
9. 茶話会：講演会後に茶話会（ノンアルコール、参加費 500 円、1 時間程度）を予定

Kansai Chapter First Lecture Meeting of AY 2017

The Kansai Chapter First Lecture Meeting of the 2017 academic year by the Literature in Language Education SIG will be held as follows:

1. Date: Saturday, July 8, 2017, 15:30–17:00
2. Venue: Room 1004, Kwansai Gakuin University, Umeda Campus
(http://www.kwansei.ac.jp/kg_hub/access/)
3. Title: Learning Language and Communication Through Literature
4. Speaker: Prof. Masayuki Teranishi (University of Hyogo)
5. MCs & Discussants: Prof. Aiko Saito (Setsunan University) and Assoc. Prof. Kiyoko Sakamoto (University of Shiga Prefecture)
6. Abstract: Nearly two years have passed since the publication of *Literature and Language Learning in the EFL Classroom* (edited by Teranishi et al., 2015, Palgrave Macmillan). Contributors include researchers in and from Japan, the U.K., the Netherlands, the U.S., and China. This book has been discussed in a variety of conferences and symposiums, and reviewed in *CLELE (Children's Literature in English Language Education) Journal*. Moreover, several books have been published in Japan and overseas that address related topics (e.g. Burke et al. (eds.) (2016) *Scientific Approaches to Literature in Learning Environments*, Saito (2016) *Style and Creativity*, Toyota et al. (eds.) (2017) *Stylistics for English Learners*). This would seem to suggest that *Literature and Language Learning in the EFL Classroom* has not a little influence on studies in related fields. In this lecture, I would like to reconsider the role of literature in English language education and learning and for this purpose first review the contents of the book. In particular, I would like to focus upon the following

issues: the definition of literature and literary texts, pedagogical merits of reading literature as an EFL student, case studies and model practices in Japanese EFL classrooms. Finally, I would like to exchange opinions with the floor, hoping to discover possible future directions of English, communication, and Liberal Arts education in Japan.

7. Fee: JACET member, free; nonmember, ¥500. No need to pre-register.
8. Main language for presentation: Japanese, but Q&A can be in Japanese or English.
9. Party: Please join us for a one-hour gathering with soft drinks and light snacks after the lecture. The fee is ¥500.

Details are available at the Kansai Chapter website (<http://www.jacet-kansai.org>).

■ JACET 第 56 回国際大会のお知らせ ■

2017 年 8 月 29 日（火）から 31 日（木）まで青山学院大学にて JACET 第 56 回国際大会が開催されます。皆様のご参加をお待ちしております。

テーマ：グローバル化が進む世界における英語—世界共通語の教育と研究における現状と課題を探る
日程：8 月 29 日（火）～ 8 月 31 日（木）
場所：青山学院大学

要旨：21 世紀の最初の四半世紀に際し、地球規模でのコミュニケーションの重要性は一層明確なものとなっている。実際、世界共通語の必要性は増大し、ELF (English as a Lingua Franca: 世界共通語としての英語) の理論、研究と実践は、過去 20 年に渡り目覚ましい成長と発展を遂げている。英語がさまざまな言語的および文化的背景をもつ対話者間の世界共通語と見なされるような多言語環境において、ELF が常にコミュニケーションの手段となってきた。英語使用の範囲や多様性が急速に拡大していることから、グローバル化が進む世界を背景として ELF の概念を応用言語学や言語教育分野の問題として再検討することが必要である。教育や評価の実施の点から見たアジアにおける言語学習に対する影響、学習者を有能な ELF 使用者であるとの自覚を育てる方法、評価方法やアセスメントの選定、教員研修のプログラムとグローバル化に対応する英語のパラダイムとの適合性など数多くの課題を扱わなければならない。政策立案者、学校、教師、学習者相互の一層のつながりのみならず、理論、教育、実践相互の一層の一貫性が

必要となっている。大学英語教育学会第 56 回 (2017 年度) 国際大会では 21 世紀の言語教育において重要な課題となっているこれらの諸問題を探求する。

The JACET 56th International Convention

Theme: English in a Globalized World: Exploring
Lingua Franca Research and Pedagogy

Date: Tuesday, August 29—Thursday, August 31, 2017

Venue: Aoyama Gakuin University

Abstract: As we head toward the first quarter of the 21st century, the importance of communication at a global level is becoming increasingly evident. In practice, there is a great need for a lingua franca. Over the past two decades, there have been remarkable growth and development in ELF (English as a Lingua Franca) theory, research and practice. ELF has always been a means of communication in multilingual settings where English is regarded as a lingua franca among interlocutors from a wide range of linguistic and cultural backgrounds. As the extent and diversity of English use continue to rapidly grow, we need to reconsider ELF by situating it clearly against the backdrop of a globalized world with considerations for issues in applied linguistics and language teaching. Many issues need to be addressed. In terms of pedagogical and assessment practices, what are the ramifications for language learning in Asia? How can we nurture learners to think of themselves as capable language users? What kinds of assessment and evaluation can be used? How do teacher training and development programs fit into a paradigm of English for a globalized world? More coherence is needed among theory, pedagogy and practice as well as more links among policy makers, schools, teachers and learners. JACET 56th International Convention (2017, Tokyo) seeks to explore such issues and challenges at stake in language education for the 21st century.

■ 紀要編集委員会より ■

『JACET 関西紀要』第 19 号を平成 29 年 3 月末に会員の皆様へ送付致しましたが、落丁や文字落ちがあり、刷り直しを 4 月に再送いたしました。ご迷惑をおかけいたしましたこと、改めてお詫び申し上げます。今回は 2 本の研究論文、1 本の実践報告に加えまして、委嘱論文としてアクティブ・ラーニングに関する研究論文 1 本と実践報告 2 本を掲載しております。ご協力いただきました査読委員の先生方には、紀要編集委

員一同心よりお礼申し上げます。

第 20 号は記念号となりますので、JACET 関西支部会員の皆様からの多彩な分野の研究論文・実践報告のご応募をお待ちしております。平成 29 年 9 月 30 日が締め切りとなっております。投稿規定 (<http://www.jacet-kansai.org/file/toukokuitei.pdf>) をご確認の上、奮ってご応募ください。

The JACET Kansai Journal (JKJ) Editorial Committee announced the publication of JKJ No.19, which was sent to members at the end of March, 2017. To our regret, it had several printing errors, so we sent a reprint to all members in April. The journal contains three invited articles on “active learning,” two research notes, and one application report. The Editorial Committee would like to express its sincere gratitude to the reviewers who devoted much time and effort to the editorial process.

We welcome your submissions for the next issue, JKJ No. 20, which will be the 20th Anniversary Issue. Please check the guidelines for details on the submission procedures and requirements. Guidelines are available at the end of JKJ No. 19 or at the following URL: http://http://www.jacet-kansai.org/file/toukokuitei_e.pdf.

■ 事務局より ■

Messages from Kansai Chapter

4 月 1 日より、支部事務局が京都大学高橋幸研究室に移りました。1 年間どうぞよろしくお願い申し上げます。連絡先は本ニューズレターの冒頭をご覧ください。

本年度から副支部長が 2 名体制となり、小栗支部長を新田副支部長と藤澤副支部長が支えてまいります。以下、総務幹事を高橋・石川圭一先生、財務幹事を宇佐美彰規先生・中西のりこ先生、紀要幹事を服部圭子先生・住吉誠先生、広報幹事を葛田和美先生・三木浩平先生が務めます。今後、この新体制で協力し合いながら、支部の活動を会員の皆様にとって益々有意義で、魅力的なものにしていきたいと考えております。

昨年秋に社員選挙が行われ、2017 年 1 月 13 日に 2017 年度～2018 年度の社員が決定しました。支部選出の 20 名の新社員や本部役員、本部運営委員の先生方につきましては、支部ホームページをご覧ください。なお、2017 年 6 月の社員総会以降に、本部役員の人事については変更が生じる予定です。

このたび、関西支部より原田園子先生 (神戸女学院大学名誉教授)、豊田昌倫先生 (京都大学名誉教授) が新たに JACET 顧問になられました。ここに、先生

方の永年のご功績やご尽力に敬意を表し、心よりお祝い申し上げます。

本年度の研究企画委員会の体制として、委員長を時岡ゆかり先生、副委員長を松田紀子先生と魚住香子先生がご担当なされることになりました。また、新たに10名の先生方が研究企画委員としてご就任なされました。心強い布陣で支部大会を盛り上げてまいります。皆様のあたたかいご理解とご支援をよろしく願い申し上げます。

2016年度でご退任なされた先生方から、以下のメッセージをいただきましたので、ご紹介いたします。このほか、2015年度～2016年度の社員である東眞須美先生、原田園子先生、林アレックス M.先生、加藤雅之先生、中西のりこ先生、野澤健先生、岡田伸夫先生、里井久輝先生、清水裕子先生、竹内理先生にも役員会の審議等々で大変お世話になりました。

これまで支部のためにご尽力いただき、誠にありがとうございました。この場をお借りして、心より御礼申し上げます。

■ 退任のご挨拶 ■

Messages from Kansai Chapter Officers Completing Their Term of Office

◎ 旧総務幹事・事務局：藤澤良行先生（大阪樟蔭女子大学）

3年前に小栗裕子現支部長から急にお電話があり、総務幹事にと要請され、今までJACETにはほとんど貢献していなかったこともあり、罪滅ぼしにお引き受けした次第。昨年度は事務局でしたが、幹事の優秀な先生方の助けがあつての一年でした。日付などの決めごとでの勘違いが多々あり反省（寄る年波には勝てない）。今年度から副支部長、イベント担当としてもう少しお世話になります。これまでのご厚情に感謝しつつ、これからもよろしく願いします。

◎ 旧総務幹事：東郷多津先生（京都ノートルダム女子大学）

JACET一般社団法人化後、事務局に引き続き総務幹事として2年間お世話になりました。体制移行期の事務局を何とか務められましたのは、支部長補佐の先生方を始め、多くの善意ある先生方のお力添えあつてこそと改めて感謝申し上げます。今年度からは、移行期の総務、会計・財務幹事3名体制も終わり、広報と紀要幹事8名による新幹事体制が確立しますので、小栗支部長のもと、関西支部が更なる発展を遂げられることと確信しております。ありがとうございました。

◎ 旧財務幹事：増田将伸先生（京都産業大学）

突然ご指名をいただき、思いがけず財務幹事を2年

間務めさせていただきました。財務が扱うのはお金ですが、お金には使う目的があり、その目的にはいつも、学会の充実を願う方々の思いが込もっていました。学会という場を維持し、より充実させるために先生方が熱意をもって取り組んでおられるのを目の当たりにし、ご一緒させていただけたのは貴重な経験でした。いつも和やかで前向きな時間を過ごさせていただき、ありがとうございました。

◎ 旧財務幹事：村上裕美先生（関西外国語大学短期大学部）

小栗裕子先生が関西支部長に就任される際、未熟者ながら財務幹事に任命いただきました。少しでも支部活動のお力になれることを願い、微力ながら努めさせていただきました。毎月の本部事務局への会計報告や支部講演会や企画会議、役員会議等の会場手配、金銭や諸々の準備等業務が沢山ありましたが多くを学ばせていただきました。関西支部会員の人数が関西支部活動費の基準となるため、一人でも多くの会員にご参加いただき今後も意義ある活動ができることを願っています。有難うございました。

◎ 旧紀要幹事：吉村征洋先生（摂南大学）

紀要のお仕事を2年間担当させて頂き、紀要編集委員の先生方を中心に多くの先生方にお世話になりました。学会誌が作りあげられていくプロセスを間近で経験できたことは、私の研究人生にとって大きな財産となりました。今年度からは研究企画委員として、支部大会等のお手伝いをして参りたいと思います。引き続きどうぞ宜しくお願い申し上げます。

◎ 旧広報幹事：表谷純子先生（神戸学院大学）

広報幹事を2年間担当させていただきました。支部長、副支部長、支部幹事、紀要編集委員、研究企画委員を含め、皆様からの温かいサポートのおかげで素晴らしい経験をすることができ、多くのことを学ばせていただきました。心より感謝申し上げます。今年度からは研究企画委員としてお世話になります。JACET関西支部の発展に少しでも貢献できますよう従事して参りますので、引き続きどうぞ宜しくお願い申し上げます。

◎ 旧研究企画委員長：生馬裕子先生（大阪教育大学）

事務局と研究企画委員として6年間、野口先生、小栗先生のご指導のもと大変お世話になりました。京都大学での国際大会の運営を間近で学ばせて頂いたことも大変刺激的で得難い経験でした。貴重な機会を与えて下さったことに感謝致します。最後の一年間に拝命した任務はわたくしの力量をはるかに上回り、先生方に多大なるご迷惑をおかけしたことをこの場をお借りしてお詫び申し上げます。これまでに頂戴した

先生方の温かいご指導に心より御礼申し上げます。

◎ 旧研究企画副委員長：金丸敏幸先生（京都大学）

2期4年に渡って、研究企画委員としてお世話になりました。最後の一年は副委員長を仰せつかりましたが、十分なお勤めができず、みなさまには大変なご迷惑をおかけしてしまったのが心残りです。気がかりなのは、大学を取り巻く環境が厳しくなっているのか、年々講演会や支部大会の会場確保が難しくなりつつある点です。そのような中、快く会場を提供していただいた先生方には感謝の念で一杯です。本当にありがとうございました。

◎ 旧研究企画委員：桐村亮先生（立命館大学）

4年間お世話になりました。委員会では、どの分野でどのような研究が今おもしろいか等が話し合われ、勉強させて頂きました。また、全国や支部の大会では司会を少しさせて頂くだけでも名前がプログラムに載りますので、それだけで、普段なかなかお会いできない先生方から、がんばってるね、と声をかけて頂くなど、嬉しい思いもいたしました。委員をすることでお会いできた先生方もたくさん。ありがとうございました。

◎ 旧研究企画委員：笹井悦子先生（桃山学院大学）

この度4年、以前と合わせて8年間、研究企画委員として大変お世話になりました。多くの素敵な先生方と出会い、ご一緒させていただいて大変楽しかったです。多くを学ばせていただきました。このかけがえない経験は私の生涯の宝物です。感謝の気持ちでいっぱいです。任期最後の支部大会で長年の念願だった憧れの鳥飼玖美子先生のご講演が叶ったことも印象的です。今後もJACET関西支部の益々のご発展をお祈りします。

◎ 旧研究企画委員：窪田光男先生（同志社大学）

1期2年という短い間でしたが、研究企画委員として活動に参加させていただく機会を与えていただきありがとうございました。この度の任期中は、土曜日に大学の行事と重なることが多く、十分お役に立てなかったことを心苦しく思っております。これからは一会員として勉強させていただきたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

◎ 旧研究企画委員：田中美和子先生（立命館大学）

研究企画委員としてお世話になり貴重な体験をさせて頂きました。こうして学会を運営する立場を少しでも経験することができて、幸運でした。2016年春の大会が、非常勤校である京都ノートルダム女子大学にての開催となり、幹事の東郷多津先生をお手伝いして、私にとって最高の思い出作りをすることもできま

した。諸事情で2年という期間となりましたが、経験豊富な先生方とご一緒させて頂き幸せでした。ありがとうございました。

◎ 旧研究企画委員：金志佳代子先生（兵庫県立大学）

2015年度から2016年度までの2年間、研究企画委員として大変お世話になりました。ちょうど2年前、右も左もわからない状況で委員会に参加させていただいたのが昨日のここのようです。短い期間ではありましたが、研究企画委員の先生方に出会い、支部講演会、支部大会の企画に携わらせていただいたことは、私にとって貴重な体験になりました。今後も一会員としてJACETで学ばせていただきたいと思っております。本当にありがとうございました。

◎ 旧研究企画委員：金井啓子先生（近畿大学）

本来であれば2期4年間務めるべきところ、本務校における業務を含めた諸般の事情により1期のみで退くことになってしまいました。皆様にご迷惑をおかけし申し訳ございません。この2年間、不慣れながらも研究企画委員会に出席することを通じて、様々なご専門の方々と触れ合う機会を得て、多くを学び、時には楽しいおしゃべりの時を持つこともできました。このご縁を今後も大切にしたいと存じます。ありがとうございました。

◎ 旧研究企画委員：杉村醇子先生（阪南大学）

研究企画委員を拝命して以来、多くの先生方のご指導のもと、JACET関西支部の運営に携わることができ、感謝の気持ちでいっぱいです。京都ノートルダム女子大学で開催された2016年度春季大会で、藤岡千伊奈先生とPaul Goldberg先生の熱気あふれる研究発表の司会をさせていただいたことは、自分にとって大きな財産になりました。これまで英文学研究が主でしたが、英語教育の最新の知見を得るべく、今後さらにJACET関西支部で学ばせていただきたいと思っております。これまで本当にありがとうございました。

◎ 旧研究企画委員：長谷川由美先生（近畿大学）

1期2年間のみでしたが、研究企画委員を務めさせて頂きました。学会に貢献できたことが本当に少なく、企画委員に推薦していただいた先生には、大変申し訳なく思っております。今後は一会員としてJACET関西支部に参加させていただき、研究に邁進していきたいと思っております。お世話になりました先生方に御礼申し上げますとともに、JACET関西支部の今後の発展を心よりお祈り申し上げます。

◎ 旧関西支部紀要編集委員：佐藤恭子先生（追手門学院大学）

これまで2期5年間にわたり委員としてお世話に

なりました。委員として十分にお役に立てなかったことを申し訳なく思っております。紀要の編集という作業を通して、多くの先生方とおつきあいをさせて頂けたこと、感謝の気持ちで一杯です。地道な作業ではありませんでしたが、支部長、委員長をはじめ先生方のお力によってなんとか務めることができました。これからは会員としてこうした貴重な経験を忘れずに、日々頑張っていきたいと思っております。最後になりましたが、JACET の益々のご発展と皆様のご活躍をお祈りしております。本当に、ありがとうございました。

■ 会員情報の変更 ■

支部会員向けの各種案内の配送やメール・リストによる情報の配信に使用いたしますので、会員情報（住所、メールアドレス、所属、電話番号等）が変わられた方は、**必ず**ご連絡ください。なお、関西支部では名簿の作成・管理は行っておりません。**会員情報の変更のご連絡は、本部事務局 (jacet@zb3.so-net.ne.jp)**までお願いいたします。

Please immediately report any changes in your address, affiliation, e-mail address, telephone numbers, and other information to the **JACET Main Office** (jacet@zb3.so-net.ne.jp).